

令和6年度 第5回社会教育委員会会議 会議録

開催日時	令和7年1月24日 金曜日 13時30分から15時10分まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	和田智司教育長、久保田秀実委員長、橋本由恵副委員長、市川葉子委員、稲葉通隆委員、関口金由紀委員、中西美保委員
欠席者	石黒賢路委員、三宅栄子委員
事務局	椎野教育部長、山下生涯学習課長、二見生涯学習班長、井上スポーツ推進班長、込山図書館班長
その他	傍聴者0名

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

(1) 生涯学習課事業について

(委員)

大人が楽しむおはなし会に参加したのは、どのような年齢層か。

(事務局)

20代の方も参加しているが、多くは50代60代である。また、町外の方で参加いただいた方もいる。

(委員)

文化祭実行委員会に関連して、参加団体の高齢化などが話にでていたが、実際に参加団体が減少し、プログラムに穴が開いてしまうなど問題が出ているか。

(事務局)

展示の日程は調整しているため穴が開くということはない。実行委員会では、参加団体が固定化しており、見に来る方も同様に固定化しているため、新しい団体にも入ってもらいたいという意見が出ている。

(委員)

毎年、参加団体を募集しているのは承知しているが、新規の団体が参加した場合、以前から参加している団体が参加できなくなるということはないのか。

(事務局)

日程を調整する必要があるが、参加できなくなるということはないと考えている。文化祭ではホールで発表を行う芸能大会を開催しているが、今年度は休憩を入れて3時間程度と、当初想定したよりも短い時間の開催となっており、新たな団体の募集は必要と考えている。

今年度は、中学校で作成したステンドグラスをホワイエでも展示したところ、大変好評だった。町の文化祭は、中学校の文化祭のすぐ後の時期に開催されるため、こちらは来年度以降も続けたいと考えている。

(委員)

展示ギャラリーのユニカール体験は、部屋の使い方としても、とても良いと思う。展示ギャラリーのシャッターが閉まっていると寂しい印象となるので、これに限らず、展示以外でも利用してもらえるようになると良い。

(事務局)

展示ギャラリーの稼働率はあまり高くなく、リニューアルの後にはなるが、隣接するサービスコーナーと今後の活用を一体的に検討していく。

(委員長)

20歳のつどいに出席したが、参加者は騒ぐこともなく、式典中は話をよく聞き、その姿勢の良さに驚かされた。この事業を進めるにあたり、実行委員や参加者の様子など、気づいたことがあれば教えてほしい。

(事務局)

実行委員会は、委員長を中心によくまとまっていた。また全国のニュースでは騒いでいる会場の様子も見受けられるが、当町のつどいでは、そのようなトラブルもなく、来賓の話の際にも静かに聞いている姿勢が見られた。

また、13時にラディアンを閉館としたが、南側の広場でしばらく歓談している様子も見られた。

(委員長)

ニュースポーツの普及についてはどうか。

(事務局)

町ではユニカールの器具を一式持っているが、大人用のため小さな子どもが投げられないという課題がある。体験会については、大磯町が子ども用の器具を持っているため、借用して開催している。だが、コートなど準備にも手間が

かかるため、活用について課題を感じている。

このほかにも楕円形のボールでバレーボールを行うフラバールというものも持っているので、まずは知ってもらおうというところから取り組みたい。

また、青少年指導員ではモルックを持っていることから、そういったところからもアプローチしていきたい。

(委員)

ラジオ体操講習会とニュースポーツ体験会はセットで開催するのか。

(事務局)

その予定である。スポーツ推進委員にラジオ体操指導員の資格を持っている方がいる。しかし、ラジオ体操だけでは時間に余裕があるため、先ほどお話ししたフラバール体験をあわせて行う。実施時間としては午前中を考えている。

(委員)

多世代でできそうな内容で良いと思う。

(久保田委員長)

子ども会が解散する方向性であるという話があったが、二宮町は子ども会以外に子どもや親を支えるサークルのような団体が多いと感じている。そのため、例えば子ども会が解散したとしても、影響が少ないと感じている人が多いのではないか。その辺りについて、何か情報は入っているか。

(委員)

解散するというのは、子ども会育成会連絡協議会（以下、「子育連」）だけではなく、地域の単位子ども会（以下、「単子」）を含めてか。

(事務局)

子育連については、来年度一年をかけて解散に向けて活動を行い、年度末に解散する予定である。単子については、継続して活動する地区や解散して地区の部会のような形になるなど、各地区で対応は様々であるが、夫婦共働き世帯が多くなっている中で、役員のなり手不足が大きな課題となっている。

(委員)

補助金については、子育連が解散することから支出がなくなることだが、地域の子どものための活動に補助が出せる仕組みもあると良いと思う。

(事務局)

今は子どもを対象に活動している団体が多岐に渡っている。子育て連は、来年度は活動を継続するため、その間が検討期間だと考えている。

また、町としても子どもの体験活動は重要と受け止めており、中心となる事業として、放課後子ども教室を考えている。来年度は、試行的に保護者も参加できるよう、休日の開催を予定しており、自分の子どもだけではなく、地域の子どもを皆で見守っていくような仕組みづくりをしていきたい。

(委員)

子どもを対象とした活動は多いが、地区とのかかわりは薄い。今までは子ども会を通して地区の行事に参加していた子どもが、単子の活動が縮小していくことで、地区活動への参加のハードルが上がってしまわないかが心配である。今後、地区活動もどうなっていくか分からないが、こうした仕組みについても模索する必要があると思う。

(委員)

スポーツチャレンジについてだが、町立体育館は交通の便が良くない。スポーツ協会のスポーツフェスティバルも最初は町立体育館で行い、その後、現在の二宮小学校に会場を移した。会場を移した後の方が参加者も増えているので、学校の都合もあるが、開催場所を検討してもらえると良いと思うがどうか。

(事務局)

スポーツチャレンジはスポーツ推進委員の主催事業で、協議会の中で町立体育館が良いという意見もあり、今回は会場が決定した。今年度初の開催であるので、来場者へのアンケートも実施しながら、課題を来年度に生かしていきたい。

(委員)

スポーツ協会には武道の団体も多く加盟していると思うが、それらの団体の影が薄いように感じる。

(事務局)

今年度、スポーツ協会と補助金の在り方についての検討を行った。その中で協会からご提案をいただき、加盟団体がスポーツの体験会を開催した際に、補助金を支出する仕組みとすることを考えている。こうした取り組みから、武道も含めたスポーツの振興について取り組んでいく。

(委員長)

町民大学について、以前にもボランティアの人数が少ないという話があったが、その後の状況はどうか。

(委員)

現在何名で活動しているか。

(事務局)

9名で活動しており、講座のポスターや町広報誌に記事を掲載して随時募集しているが、メンバーは増えていないのが現状である。受講後、自分たちで継続学習のグループを作っている方もいるため、そういった方にお声かけするなど、募集にも工夫が必要だと感じている。

(2) 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について

※質疑等なし

(3) その他

①県社会教育委員連絡協議会地区研究会（大磯会場）について

※質疑等なし

②生涯学習センターレイアウト変更について（非公開）

4. 閉 会